

地理歴史科公開授業学習指導案

指導者 職・氏名 : 教諭 児玉 光

指導日時・教室 令和5年11月15日(水) 5限目 教室名: 2年3組教室
 対象生徒・集団 情報処理科2年3組30名
 科目名 地理総合(単位数: 2)
 使用教科書 高等学校 地理総合(第一学習社)

1 単元名 第3編1章 自然環境と防災

2 本時の指導と評価の計画(9時間目/9時間計画)

(1) 学習テーマ 関東大震災から学ぶ現代の防災

(2) 本時のねらい

- ① 関東大震災時の史料・映像をもとに、地震被害の実例を学ぶ。
- ② ①をもとに、地震発生後にどのような想定をしなければならないか考える。

(3) 準備・資料等 授業スライド

YouTube (NHKスペシャル「映像記録 関東大震災 帝都壊滅の三日間」)

(4) 本時の展開

過程時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 5分	1 関東大震災の概要を学ぶ。	・教科書 PP.188~191で地震の種類を確認する。 ・東日本大震災・熊本地震との比較をする。	・夏休み課題で作成したマイ防災マップのことを思い出させる。	【知識・技能】 ・教科書で既習知識を確認することができる。
展開 40分	2 関東大震災の頃と現代の防災意識の違いを話し合う 3 被服廠跡の被害動画を視聴する。 4 人吉球磨に地震が発生した際、どのような被害が起こりうるか話し合う。	・関東大震災に関する動画を視聴する。 ・戦前の防災意識と現代の防災意識を比較する。 ・安全だと意識していた場所でも予測不能な災害が襲いかかることを理解する。 ・これまで意識していなかった被害を話し合っって予想する。 ・これまで国内外で起こった地震被害や、今後予想される震災に関する研究成果などをネットで検索する。	・過去の防災意識が“劣ったこと”と意識するのではなく、科学の進歩によって「可能なことが増えた」という意識で考えさせる。 ・被服廠跡の被害は、現在科学的に予測することが出来ることを確認させる。 ・今後予想される南海トラフ地震の研究成果など、想定される被害とその対策に目を向けるよう促す。	【主体的に学習に向かう態度】 ・グループで地震発生時に身近に起こりうる事を予想したり、調べたりすることができる。
終末 5分	5 災害発生時に自分にできることを考える。	・学習シートに、災害時に自分が出来ることを考え文章化する。	・これまでの災害学習を生かし、家族でマイタイムラインを作成するなど対策をしておくよう促す。	【思考・表現・判断】 ・災害発生を身近に起こりうる事と考え、自分事として考えることができる。

